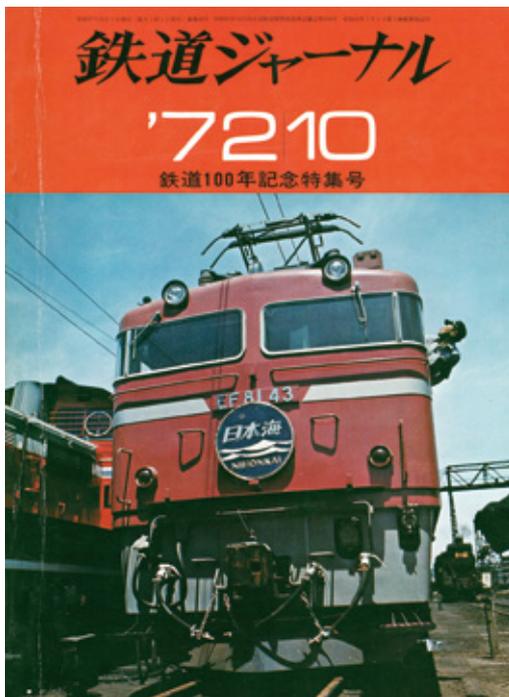


千利狸の呟き

巷では鉄道150周年記念イベントが数多く行われています。SL記念運転、それに押し寄せる撮り鉄、ジオラマでの鉄道模型の運転を楽しむ子供だけでなく、大人を目にします。鉄道ファン健全なようです。

ところで鉄道100年はどうだったか気になる所です。私は高校卒業した年でした。持ち合わせた「鉄道ジャーナル、1972年10月号－鉄道100周年記念特集号」と鉄道100周年記念で発刊された「日本の駅」をめくってみました。



鉄道ジャーナルの表紙は「特急日本海」のヘッドマークを付けた電気機関車EF8143でした。1972年10月2日に羽越本線の電化が完了するものだったようです。つぎのカラーページには、気動車運転の「いなほ」、秋田機関区の扇形庫、転車台の蒸気機関車、電気機関士への転換教育の姿が掲載されていました。電化に伴い、特急「白鳥」、「いなほ」が電車化され、蒸気機関車の定期運用が終了し、羽越本線が無煙化されています。秋田にとって100年は大きな年でした。1984年11月、私を秋田に運んでくれた「白鳥」も当然電車でした。ちなみに、「羽越本線は、新潟県下越地

鉄道150周年をざっくばらん

鉄道大好き狸

方（新津駅）から日本海沿岸を経て秋田市を結ぶ、東北地方の日本海沿岸の大動脈路線で日本海沿岸の他の鉄道路線とともに、近畿地方から東北地方を繋ぐ日本海縦貫線の一部を形成し、「いなほ」などの長距離特急列車や、JR貨物による貨物列車が走る。」と某書に記載されています。ほかに誌内で1985年10月の新幹線ネットワーク予想図があり、現在の新幹線に加え、北海道新幹線は札幌まで、北陸新幹線は大阪まで、四国新幹線、長崎新幹線、成田新幹線などと予想されています。その後、成田新幹線は撤廃、現在、北海道、北陸新幹線は現在半ば途中の状態ですが、長崎新幹線は西九州新幹線として、今年9月に部分開業しました。「赤いかもめ」は新鮮な印象です。また「日本の駅」での由利本荘地区の駅の姿は様変わりですが、現在の羽後亀田駅は、「砂の器」に登場する、当時の姿に近いのかと思いました。このまま残ってほしいものです。

150年の節目に鉄道、特に地方鉄道の現状の厳しさの対応が迫られています。今年7月にJR東日本は利用者の少ない輸送密度2,000人未満の地方在来線区間別収支を発表し、羽越本線の村上駅－鶴岡駅間の赤字額が49億900万円と、極めて大きな額になっていることを明らかにしました。日本海縦貫線の一部である羽越本線の存続は鉄道の旅には欠かせないものです。身近な由利高原鉄道の厳しさは毎年報告されているとおりです。活路を見出すため、いろいろなイベントが行われていますが、多くの人への周知が不十分に感じられます。数年前の医師会旅行で、短いひとときでしたが、お酒を飲みつつの貸し切り列車は楽しかった。昨年夏、角館から鷹巣まで秋田内陸縦貫鉄道を初体験しました。のんびりと車窓の景色、たんぼアートは癒されました。現在、水害で区間運休となっており、早期の復旧を祈るばかりです。いずれもファンクラブがあります。

偶然にも、九州新幹線「みずほ」と名前が同じ孫娘に、プラレール、イベントなどで、鉄道ファンの継承を試みている現在です。本業の継承はままならないのに。